

進路指導室へようこそ

前橋女子高校進路指導部

令和5年度 MJ 進路通信 第37号

令和6年1月25日（木）発行

■国公立大の出願が始まりました

22日から国公立大学の一般入試の出願が始まっています。出願締め切りは2月2日（金）。それまでに国公立大志願者は出願の手続きをすることになります。大学によって「必着」のところと「当日消印有効」のところがありますのでしっかり確認しておく必要がありますが、締め切りギリギリになって慌てて用意をすると、思わぬミスが生じるものです。遅くとも今月中には手続きを済ませておきたい。出願は各自で行うもの。ご家族の方にお問い合わせすることが多いと思いますが、すべて親任せでなく、自分で出願の全てを把握しておきましょう。出願にあたっては

- 出願は前中後期一括で出願します（前期試験の結果を見て後期を出願するのではありません）。
- 共通テスト成績請求書を必ず貼付の上、書類を提出します（あってはならないことですが、まれに大学から書類の不備の連絡が学校に来ます。最悪の場合、出願が受理されないこともあります）
- 調査書は「厳封」です。開封すると無効になります。

そして、出願したら、もう迷わないこと。志願倍率等の情報が日々公開されていきますが、ここまできたらそんな情報には目もくれず、一心不乱に勉強するだけです。悩んでいる時間ももったいない、くらいの気持ちで1分1秒を無駄にせずがむしゃらに勉強しましょう。

国公立大入試日程

- 前期試験 2/25（日）～ ※合格発表3/1（国立大は3/6）～3/10
- 中期試験 3/8（金）～ ※合格発表3/20～24
- 後期試験 3/12（火）～ ※合格発表3/20～24

3月15日には卒業生合格体験談報告会があります。3年生の皆さんには、ぜひ後輩たちに自分たちの経験を伝えてほしい。その場に立つことも目標の1つにして受験を頑張してほしいと思います。

■SSHで学んだことを自分の強みにしよう

20日に行われたSSH公開検討会。体育館では多くのブースで活発な意見交換が行われました。1年生には初めての研究発表で緊張したと思いますが、いい経験になったのではないのでしょうか。

SSHに指定されている本校では、研究活動を充実したものにするために様々な支援があり、優れた研究成果を大きな舞台で発表した先輩方もたくさんいます。そして、研究で得た知識や学びの手法を自分の強みとして、目標とする志望校への距離を縮めてきた先輩方も多くいます。

最近、一般入試のほかにも学校推薦型選抜や総合型選抜によって進学する生徒が増えてきており、その多くは「授業以外でどんなことを学んできたのか」が入試で問われます。下の質問は、昨年度の大学入試の面接試験で実際に問われた項目で、多くの大学で探究活動への取り組みを重視していることが分かります。せっかくこのような恵まれた環境にあるのですから、探究活動への取り組みを自分の強みにして、志望校への距離を（学力的な面だけでなく、その研究への強い想いという意味でも）縮めていけるとよいのではないのでしょうか。今回の経験を踏まえ、さらに深い学びへと進んでいく前女生であってほしいと思います。



- 今まで行った研究について、実験内容、結果を含めて説明してください（東北大・薬・AO）
- 総合的な探究の時間は、何をを行い、何を学びましたか（静岡大・グローバル共創・総合型）
- 研究活動で得られた教訓は何ですか（筑波大・医・総合型）
- 研究してきた内容についてポスターを投影しながら説明してください（お茶の水女子大・理・総合型）
- 探究活動はコロナ禍でどのように協力して行ったのか、何が大変だったか（県民健康科学大・看護・推薦）
- 探究活動の内容について、詳しく説明してください（多数）

■駿台模試をどのように活かすか ～ただ「難しい」だけの模試で終わらせないために～

先週の進研模試に続き今週末は駿台全国模試が予定されています。進研模試と比べて母集団や問題のレベルがやや高めに設定されていることもあり弱気になってしまう人もいるかもしれません。ですが、この時期に駿台模試を設定している目的は、大学の個別試験に通用する力をつけるため、進研模試の受験だけでは得られない経験をしてもらうことにあります。それは

- ・パッと見て「難しそう！」と感じる問題をどうやって攻略するか
- ・制限時間内で、解くべき問題と後回しにすべき問題をどう見極めるか（優先順位の設定）

です。とくに2つめの「優先順位の設定」というのは、日々の学習においても意識してほしいものです。多くのミッションを抱え、「何から手をつけていいのかわからない」状態をどう回避して1つ1つの課題を順番にクリアしていくか。これは皆さんが大学に進学してから、社会人になって仕事をするようになってからもずっと求められる力です。駿台模試を使って、そのトレーニングをしてほしい、というわけです。高得点が必要な進研模試と違い、半分以下の得点率でも全然心配する必要のない駿台模試は、「その目的がどこにあるのか」を理解していれば、決して気が重い模試ではないのです。

駿台模試偏差値	得点率	目標レベル
75前後	約70%	東大（理Ⅲ）
70前後	約60%	東京医科歯科（医）
65～67	55～58%	東大
60前後	53～55%	一橋大・東工大
57～59	48～53%	地方国公立医学科
55前後	45～50%	旧帝大
50前後	40～42%	千葉大・横国大等

■今年度の共通テスト問題分析（ベネッセデータネット提供）

英語R ～様々な場面や状況に応じた題材が取り上げられた。文章量が増加～

題材は昨年同様、日常的な文章や説明文など様々なものが扱われた。設問では出来事の順序を問う問題や、プレゼンテーションのスライドを完成させる問題などが出題され、昨年同様に多面的に情報を処理する力が求められた。文章量は増加したものの、難易は昨年並。

英語L ～昨年同様、場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた～

昨年に続き、音声情報とイラストや図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が出題。場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。講義全体を理解する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な問題もみられたが、全体的に取り組みやすく、昨年よりやや易化。

国語 ～推敲や鑑賞などの「言語活動の充実」を意識した設問が出題～

全大問で複数のテキストが提示され、全体の分量はほぼ昨年並。第2問問1、第4問問1などの知識事項を問う設問が出題された一方で、第1問問6の〈推敲〉、第4問問6の〈鑑賞〉など、「言語活動の充実」を意識した、応用的・発展的な思考力が求められる出題が全大問で見られた。昨年より易化。

数学ⅠA ～三角比の表を利用する現実事象の問題が出題された～

第1問〔2〕「図形と計量」では、太陽高度などを利用して、電柱の高さやその影の長さを求める現実事象の問題が出題された。第3問「場合の数と確率」は、昨年に引き続き、前設問の求め方などを利用して解いていく問題が出題された。解法の方針が立てにくい問題が多く、昨年より難化。

数学ⅡB ～本試験で初めて「式と証明・複素数と方程式」を主題とした問題が出題～

第1問〔2〕は、「式と証明・複素数と方程式」からの出題で、条件から何が導かれるか、論証の正確な理解に関する目新しい設問があった。第2問「微分法・積分法」は、定積分と面積に関する本質的な理解が問われ、後半は抽象的な設問が続くため、取り組みにくかったであろう。昨年よりやや難化。